

SUPERBIKE **EX**tra, EXpert and EXtreme  
**EXPRESS--**

**JSB 1000**  
JAPANESE ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

全戦優勝が目標と宣言する中須賀克行

## 中須賀が圧巻のコースレコードで 昨シーズンから9戦連続でポールポジションを獲得! 津田拓也、渡辺一樹は一矢を報いるか!?

栃木県・ツインリンクもてぎでシリーズ第3戦を迎えた全日本ロードレース選手権。開幕戦筑波は、J-GP2、J-GP3、ST600クラス、第2戦鈴鹿2&4レースは、JSB1000クラスのための開催となっていたため、今回が2016年シーズンで初めて4クラスをろつてのラウンドとなった。

JSB1000クラスの公式予選は、TOP6サバイバルで行われた。まず30分間の計時予選(Q1)で11番手以下のグリッドが決定。トップ3が6台で争われるQ3に進出。Q1の4番手から10番手までの7台でQ2が行われ、上位3台がQ1に進出し、6台によって争われるQ3でトップ6が決まるというものだ。

レースウィーク初日となった金曜日は朝方から雨模様となり、1本目はウェット、2本目もハーフウェットという不安定なコンディション。今シーズンよりイクイップメントを変更したり、マシンがモデルチェンジしていたりするチームにとっては、特にドライでの走行が絶対的に足りない状況となっていた。昨年のツインリンクもてぎラウンドの予選もサバイバル方式で行われたが、トップ10だった。今年は、トップ6となり昨年よりは周回数が少なくなるためタイムは出しやすくなった。

そんな中、速さを見せたのは、やはり中須賀克行だった。Q1では、ドライのセットを進めるために長めの走行を行い、その中で1分48秒838をマークし、

この時点でコースレコードに匹敵するタイムを出していた。Q3でも、計測1周目で1分48秒796をマークしコースレコードをブレイク。2周目に1分48秒503、3周目に1分48秒854、4周目に1分49秒035となったが、最終アタックで1分48秒460をマークし、堂々のポールポジションを獲得した。

「金曜日が雨だったので、ドライのセットができなかったのが、昨年のレースデータをベースにしてセミロングを行い、バイクの状態を確認できました。1分48秒台アベレージで走ることができていますし、理想は、独走ですが、周りもタイムアップしてきているので足もとをすくわれないように勝利を目指して行くだけです」と中須賀。

2番手にはヨシムラの津田拓也がつけた。「トップ6サバイバルは一発タイムだけではないので決勝を想定しながら走っていました。ある程度コントロールして1分49秒フラットで走ることができたので、決勝では1分48秒台に入れられると思います。とにかく中須賀選手を逃がさないように、鈴鹿のようなミスをしたくないですね」と津田。セクター1では、最速タイムをマークしていただけに、その辺に勝機があるのか!?

フロントロウ最後の3番手には、渡辺一樹がすべり込んだ。

「新型になってからツインリンクもてぎを、たくさん走

ることができていませんが、事前テストでは、ドライは1日のみでしたがセットアップが進んでいました。Q1では、すぐに事前テストでマークしたタイムが出ていたので、セットを変更しましたが、いい方向に行かず、戻してQ3に臨みました。1分48秒台も出ましたし、悪くはないと思うので、決勝日のウォームアップ走行を使って前の2人を抜けるようにバイクを作ってレースに臨みたいです」と自信をのぞかせた。

Team GREENが続き、4番手に柳川明がつけた。「まだ新型ZX-10Rの特性をつかめきれていないのが現状です。スロットルの開け方や走らせ方などを考えながら自分に合わせて行けば、まだまだ行けると思います」と柳川。

以下、野左根航汰、中富伸一とヤマハ勢が続き、7番手の渡辺一馬がHonda勢最上位という状況。BMWを駆る酒井大作が8番手と健闘し、今野由寛、藤田拓哉と続くトップ10だった。11番手に山口辰也、12番手に高橋巧、13番手に秋吉耕佑、14番手に加賀山就臣、15番手に高橋裕紀と、そうそうたるメンバーが並んだ。

トップグループは、中須賀がどんなペースで走ることによって決まるはず。津田、渡辺一樹、柳川明が、どこまで中須賀についていけるか!? それとも後方から山口や高橋巧が追い上げてくるか!? 長丁場の23周で行われる決勝レースの行方に注目だ!



2番手の津田拓也



3番手の渡辺一樹



**JSB 1000**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

**ポールポジション:1分48秒460 R**  
**#1 中須賀克行**  
**YAMAHA FACTORY RACING TEAM**

『事前テスト初日も金曜日にも雨だったので、ドライコンディションでのセッティングが進んでいませんでした。Q1は、30分しかありませんでしたが、その中で、なるべく多く周回してマシンの状態を確認しました。この時点で1分48秒台に入れることができていましたし、トップ6トライアルという特殊なセッションでしたが、1分48秒台で走ることができましたし、コースレコードも更新できたので、ひと安心です。ただ大事なのは決勝ですから23周と長いレースなので、トータルで速く走ることができるように状況に応じてペースアップできればいいと思っています。アベレージもボクが持っているので、ライバルに付け入るすきを与えないようにしたいですね』

SUPERBIKE EXPRESS 2016 VOL.3 TWIN RING NOTEGI... J-GP2 CLASS...

**J-GP2**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
**QUALIFYING PRACTICE**  
REPORT & INTERVIEW

**生形秀之が全日本初のポールポジションを獲得!!**  
**「勝つという、強い気持ちでレースに臨みます」**



生形 秀之

J-GP2クラスの公式予選は、セッションの序盤は水野涼が1分54秒240をマークし、まずはトップに立つ。岩崎哲朗が54秒3、渥美心、関口太郎、國峰琢磨らも54秒台で続く。中盤にかけて、生形秀之が54秒296までタイムアップ、関口も54秒284、國峰が54秒242と水野の背後を脅かす。

セッションも残り10分を切った頃、まずは岩崎が53秒793と真っ先に53秒台に入れ、トップに立った。続いて生形も53秒588をマークしてトップを奪う。井筒仁康、渥美、関口、浦本修充も53秒台に入れてトップを含めた上位陣が激しく順位が入れ替わる見応えのあるセッションとなった。

その中で残り2分、生形は53秒150にタイムアップした後もチェッカーぎりぎり最終アタック、52秒

855と只一人52秒台に入れて、自身全日本初となるポールポジションを獲得した。2番手は関口、さらに渥美、浦本、水野、岩崎と続いた。



関口 太郎



**ポールポジション:1分52秒855**  
**#2 生形秀之**  
**エスパルスドリームレーシング**

『開幕戦筑波での結果を受けて、マシンも身体のコンディションもしっかり整えて準備してきました。今回は必ずポールポジションを獲得、という強い思いで予選に臨み、目標が達成できてホッとしています。身体のコンディションはその後1ヶ月でしっかり治してきましたので、大丈夫です。今回はマシンもタイヤもバッチリ、全日本の初ポールも獲れましたので、予選同様に「勝つ」という強い気持ちでレースに臨みたいと思います』

**ST 600**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW



## チャランポン・ポラマイがポールポジション! 「スタートに集中してレースでも全力を尽くします」



チャランポン・ポラマイ

35分1セッションのST600クラス計時予選。3周目にチャランポン・ポラマイが1分55秒110でトップに立ち、盟友デチャ・クライサーも55秒775で2番手に付ける。そこに清末尚樹が55秒730をマークし、Yamaha Thailand Racing TeamのブルーにRS-ITOHのグリーンで割って入った。しかし、その後セカンドアンダーブリッジ下で発生したアクシデントで赤旗中断。このアクシデントでデチャが転倒、その後は走行できなかった。

セッションが再開された後も、上位3台を上回るライダーは現れず、結局チャランポンがポールポジションを獲得。2番手が清末、3番手はデチャとなった。4番手には岩戸亮介が56秒048で入り、前田恵助

が56秒165、榎戸育寛が56秒304で続いた。しかし、デチャは赤旗中の注意義務違反でペナルティを受け失格、3番手以下が繰り上がり、セカンドロウの6番手は津田一磨となった。



清末 尚樹



**ポールポジション:1分55秒110**  
**#65 チャランポン・ポラマイ**  
**Yamaha Thailand Racing Team**

『予選ではベストを尽くしました。特に最初の3周については最大限のトライをしたつもりです。最初から序盤の5周については、全力でタイムを出すつもりで予定していて、その後に細かくチェックしていくという戦略で、ほぼ予定通り進みました。明日はスタートに集中して、レースでも全力を尽くします』

**J-GP3**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 徳留真紀が5年振りとなるポールポジション獲得! 「良い流れをそのまま決勝レースでも活かしたい」



徳留 真紀

薄雲が広がり、やや肌寒い朝となったもてぎ。土曜日最初の公式予選はJ-GP3クラス。35分の計時セッションである。事前テストでもトップタイムをマークしていた徳留真紀が、中盤までに2分1分055秒までタイムを上げてモニターのトップに立った。その時点では2秒台で古市右京、伊達悠太、栗原佳祐、太田虎之進と続く。

セッションの終盤には各車アタックに入る。その中で前回筑波戦で初優勝を果たした栗原が1秒629にタイムアップ、ポジションも2番手とし、さらに更新を狙う。古市も1秒台に入れて3番手。昨日のART走行でトップを記録した中山愛理も2秒452まで更新して一時4番手まで浮上するが、その後関野海斗、太田、船田俊希もタイムを更新してきたため、最終

的には8番手でセッションを終えた。

結局ポールポジションは徳留が獲得、2番手に栗原、3番手が古市とその後は変動なく、セカンドロウは4番手に伊達、関野、太田と続く。



栗原 佳祐



**ポールポジション:2分01秒055**  
**#36 徳留真紀**  
**CLUB PLUSONE**

『実に5年ぶりのポールポジションなんです。その時は(2011年の開幕戦もてぎ)ポールtoウィンで勝ってるので、今年もそのイメージを実現したいですね。今年は体制も新たになって、スポンサーの皆さんをはじめ、たくさんの方の応援もいただいていますし、今日の良い流れをそのまま決勝レースでも活かして優勝しようと思います』

# MFJ Superbike Round3 SUPERBIKE RACE in MOTEGI 28 - 29 May 2016

# 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走37台  
●決勝スタート/14:25(23周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	R1'48.460
2	12	津田 拓也	ヨシムラスズケルアドバンス	GSX-R1000L6	
3	26	渡辺 一樹	Team GREEN	ZX-10R	
4	87	柳川 明	Team GREEN	ZX-10R	
5	7	野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	
6	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	

以上Q3にて決定:

7	49	渡辺 一馬	F.C.C. TSR Teluru	CBR1000RR	
8	39	酒井 大作	Rosetta Motorrad39	S1000RR	
9	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY	GSX-R1000	
10	15	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	

以上Q2にて決定:

11	104	山口 辰也	TOHORacing	CBR1000RR	1'51.063
12	634	高橋 巧	MuSASHI RT ハルク・プロ	CBR1000RR	1'51.200
13	090	秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'51.342
14	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'51.423
15	72	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	CBR1000RR	1'51.457
16	34	近藤 湧也	GBSレーシング・YAMAHA	YZF-R1	1'52.739
17	18	中津原 尚宏	オートテックスポーツPGR	CBR1000RR	1'53.289
18	83	Corey Turner	TEAMJMP DOGFIGHTER AU	YZF-R1	1'53.470
19	135	児玉 勇太	Team Tras 135HP	S1000RR	1'53.795
20	14	武石 伸也	SYNCEEDGE 4413 Racing	S1000RR	1'53.971
21	23	中村 知雅	中村エンジン研究所	CBR1000RR	1'54.090
22	51	奈須 勉	奈須飯金・WILD☆HEART	CBR1000RR	1'54.912
23	57	片平 亮輔	RSGRacing+MCR	CBR1000RR	1'55.996
24	53	福永 大輔	OutRun Motorrad TokyoBay	S1000RR	1'56.495
25	50	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	CBR1000RR	1'56.684
26	37	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000L3	1'56.882
27	98	中澤 孝之	DOG FIGHT RACING	YZF-R1	1'56.978
28	52	佐藤 宏司	大道建設 モトルファ	GSX-R1000	1'57.072
29	66	筒井 伸	DOGFISHオーテックスズカ	CBR1000RR	1'57.248
30	55	中根 裕	中村エンジン研究所	YZF-R1	1'57.263
31	27	原田 洋孝	RSガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'57.324
32	62	塩原 弘志	S.SUPPLY&おやじ組	GSX-R1000	1'57.460
33	35	LIM HO GON	Rosetta Motorrad39 KOREA	S1000RR	1'57.496
34	91	尾崎 和久	FOC CLAYMORE&ADVANCE MC NOCM+G	GSX-R1000	1'57.586
35	93	河野 浩之	CLUBNEXT&MOTOBUMwith峯川軍団	CBR1000RR	1'57.808
36	36	森 健祐	HondaブルーヘルメットMSC熊本	CBR1000RR	1'57.874

以上予選通過車両:

21	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	RSV4	1'59.667
----	-------	------------------	------	----------

以上Q1にて決定:

参加台数37台 出走台数37台  
予選通過基準タイム(108%) 1'57.989  
※トップ6サイバルQ2およびQ3で決定した順位は、タイム順ではありません。



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走23台  
●決勝スタート/10:45(20周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	36		徳留 真紀	CLUB PLUSONE	NSF250	2'01.055
2	634		栗原 佳祐	MuSASHI RT ハルク・プロ	NSF250R	2'01.629
3	7		古市 右京	KTM RACING. ASPIRATION	RC250R	2'01.877
4	31	Y	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	NSF250	2'02.066
5	11	Y	関野 海斗	Team P.MU 7C	NSF250R	2'02.177
6	45	Y	太田 虎之進	CLUB PLUSONE	NSF250	2'02.202
7	10	Y	船田 俊希	FLEX Racing TEAM	NSF250R	2'02.355
8	21	Y	中山 愛理	TEAM PLUSONE	NSF250R	2'02.452
9	8		安村 武志	犬の乳酸菌/プリミティブR.T	PRCS3C	2'02.601
10	13		岡崎 静夏	UQ&テルル・Kohara RT	TSR3	2'02.909
11	12		菊池 寛幸	H43 Team-NOBBY&ウイリー	NSF250R	2'02.930
12	41	Y	佐藤 励	41Planning	NSF-250	2'02.953
13	77		野澤 秀典	ノザワレーシングファミリー	NSF250R	2'03.433
14	410		宇井 陽一	41Planning	TR004	2'03.782
15	18		山本 恭裕	チームライブ・ドリーム北九州	NSF250R	2'03.926
16	33	Y	長谷川 聖	CLUBY's☆BATTLE☆J	NSF250R	2'04.993
17	24		畑中 要	FTR・タイヤナビ(株)遠藤住宅	NSF250R	2'05.450
18	44		小沢 良美	Garage M&(有)石原商店	NSF250R	2'05.472
19	23		大澤 恒貴	team hirock & HARC	NSF250R	2'05.537
20	32	Y	佐野 勝人	犬の乳酸菌/プリミティブR.T	PRCS3C	2'06.402
21	39		金子 寛	AutoMac 翔天恭 ifレーシング	NSF250R	2'07.110
22	99		白石 玲菜	Team Reina with O-TEC SUZUKA	NSF250	2'07.509
23	15		川原 英実	41Planning	NSF-250	2'09.715

以上予選通過車両:

26	川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA	TSR3	出走せず
----	--------	-------------	------	------

Y=YouthCup登録ライダー

参加台数 24台 出走台数 23台

予選通過基準タイム(110%) 2'13.160



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走25台  
●決勝スタート/12:05(22周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	2	生形 秀之	エスパルストリームレーシング	GSX-R MFD6	1'52.855
2	44	関口 太郎	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	1'53.353
3	090	瀧美 心	au & テルル・Kohara RT	TSR 2	1'53.498
4	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	GSX-prot071	1'53.702
5	634	水野 涼	MuSASHI RT ハルク・プロ	HP6q	1'53.781
6	70	岩崎 哲朗	OGURAcutch with パワービルダー	ZX-6R	1'53.793
7	11	井筒 仁康	WILL-RAISERacingRS-ITOH	ZX-6R	1'53.976
8	81	上和田 拓海	Webikeチームノリツケヤマハ	YZW-N6	1'54.008
9	74	三原 壮紫	H43 Team-NOBBY	HP6-q	1'54.078
10	55	國峰 啄磨	H43 Team-NOBBY	HP6-q	1'54.079
11	17	石塚 健	WILL-RAISERacingRS-ITOH	ZX-6R	1'54.405
12	15	作本 輝介	Team 高武 RSC	MD600	1'54.632
13	46	日浦 大治朗	MORIWAKI RACING	MD600	1'54.671
14	8	大木 崇行	MOTO BUM +虎の穴	CBR600RR	1'54.709
15	39	柴田 陸樹	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6X	1'54.728
16	80	稲垣 誠	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-AS6	1'54.731
17	392	長尾 健吾	ミクニ テリー&カリー	GSX-R600	1'54.907
18	10	佐藤 太紀	au & テルル・Kohara RT	TSR 2	1'54.969
19	56	中本 都	SYNCEEDGE 4413 Racing	HP6	1'55.683
20	45	古山 颯太	MotoPod&YSP名古屋西	YZF-R6GK	1'56.153
21	30	高橋 颯	CLUB PLUSONE	HP6	1'56.438
22	25	小口 亘	ALLMAN&OWRACING	YZF-OWR6	1'58.257
23	19	赤間 清	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	1'58.970
24	32	Max Croker	チームシナル&K1Racing	FTR	2'00.679
25	34	山内 宏之	立秋モーター&RC甲子園	YZF-R6	2'02.905

以上予選通過車両:

参加台数 25台 出走台数 25台
-------------------

予選通過基準タイム(110%) 2'04.140



Supported by BRIDGESTONE ●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走37台  
●決勝スタート/15:50(18周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	65	Chalermopol POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'55.110
2	20	清末 尚樹	RS-ITOH	ZX-6R	1'55.730
3	8	岩戸 亮介	Team 高武 RSC	CBR600RR	1'56.048
4	5	前田 恵助	伊藤レーシングGMDズカ	YZF-R6	1'56.165
5	9	榎戸 寛寛	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'56.304
6	23	津田 一磨	AKENO SPEED	YZF-R6	1'56.383
7	85	松崎 克哉	RS-ITOH&能塚	ZX-6R	1'56.668
8	52	岡村 光矩	RS-ITOH&FA.com保険職人	ZX-6R	1'56.761
9	40	山元 聖	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'56.817
10	43	亀井 雄大	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	1'56.926
11	42	名越 公助	GBSLレーシング・YAMAHA	YZF-R6	1'56.949
12	74	奥野 翼	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-R6	1'56.977
13	14	伊藤 和輝	UQ&テルル・Kohara RT	CBR600RR	1'57.205
14	73	名越 哲平	MuSASHI RT Jr.	CBR600RR	1'57.314
15	76	和田 留佳	RS-ITOH&サンタバイク	ZX-6R	1'57.381
16	46	星野 知也	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'57.396
17	19	中山 真太郎	TEAMしんたろう with KRT	CBR600RR	1'57.406
18	13	田尻 克行	グリーンクラブ 能塚	ZX-6R	1'57.660
19	59	若松 宏	teamYSP三鷹	YZF-R6	1'57.683
20	44	松川 泰宏	MOTO BUM HONDA+SAI	CBR600RR	1'57.756
21	32	長嶋 修一	大道建設モトルファ	CBR600RR	1'57.870
22	37	鈴木 力	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'57.920
23	39	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'58.118
24	51	宗和 孝宏	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'58.184
25	28	北岡 慎也	伊藤レーシングGMDズカ	YZF-R6	1'58.232
26	27	森中 忍	GBSLレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'58.238
27	47	豊田 浩史	D:REX Racing Team	YZF-R6	1'58.531
28	41	田所 隼	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'58.622
29	60	宮脇 寿郎	ファイヤーワークス北関東SPEEDParty	ZX-6R	1'58.627
30	50	佐藤 道夫	GBSLレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'59.730
31	31	澤村 俊紀	ホンダドリーム高崎B'WISE RT中央前橋	CBR600RR	1'59.886
32	106	大野 英樹	B~DASH106 Snail Racing	ZX-6R	2'00.223
33	35	櫻井 賢一	ホンダドリーム高崎B'WISE RT中央前橋	CBR600RR	2'00.325
34	705	黒川 武彦	保険職人SPEED Party	ZX-6R	2'00.423
35	88	林和明	ライコランド伊勢崎 ATS	CBR600RR	2'01.095
36	57	飯島 高広	中村エンジン 研究所	CBR600RR	2'01.142

以上予選通過車両:

2 Decha KRAISART Yamaha Thailand Racing Team YZF-R6 失格
--

参加台数 37台 出走台数 37台 予選通過基準タイム(110%) 2'06.621

※90度コーナー立ち上がりでの転倒事故により、赤旗中断とした。

## INFORMATION



番組タイトル一新! 2輪・4輪全ての  
モータースポーツファン向け番組

- 無料BSチャンネル「BS12トゥエルビ」でシリーズ全戦を放映!
- JP250「MFJカップシリーズ」全6戦のダイジェストを単独番組で3回放映!

★詳しい放映スケジュールはファンサイトで!(スケジュールが変更されています)

■第3戦スーパーバイクレース in もてぎ  
放映スケジュール

6月4日(土) 19:00~19:54



大きく変わるインターネットライブ中継!



サーキットの場内監視(ポスト)映像に外部カメラ映像をプラスし、新システムで「MFJライブチャンネル」にて配信。より充実した中継配信を目指します。※通信環境により配信となる場合もあります

YouTube YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

